



## 世界一安全なスタジアム計画

きっかけは、2017年、スタジアム内で1人の女性が倒れたことでした。幸い一命を取り留めましたが、大切なサポーターを守ることができませんでした。二度と起きないよう、スタジアムドクターの佐賀大学医学部附属病院の阪本教授監修、らいふ薬局協力のもと救急対応の質の向上に着手しています。1. 事前に患者となる方の基本情報(個人健康記録)を把握 年齢、既往歴、服用薬、健康データ(血圧・体重・食生活)など  
※有事の際に診断精度が上がり、治療の初手を迅速に行う 2. 個人健康記録(パーソナルヘルスレコード：PHR)を集積  
※同様の病歴を持つ方に事前に注意喚起を促す新しい健康サービスを提案

**活動場所** : 駅前不動産スタジアム

**取組テーマ** : 健康/SIB

**協働者** : 企業/医療機関(病院)

**協働者名** : 佐賀大学医学部附属病院、らいふ薬局

### 活動で工夫した点

「来場ポイント特典と特製ピンバッジのプレゼントを実施し認知と参加を高める活動を実施」 1. 来場ポイント 『JリーグYBCルヴァンカップ』、『明治安田生命J1リーグ』のホームゲームへご来場いただいた場合2ポイントを付与。 2. 更新ポイント 『JリーグYBCルヴァンカップ』、『明治安田生命J1リーグ』のホームゲーム開催(当日24時まで)に限り、更新質問に回答し登録していただいた場合1ポイントを付与。

### 活動で大変だった(苦労した)ポイント

セーフティーカードの携帯率の低さが課題で、カードの必須性、重要性を周知することや、携帯方法の提案(チケット、カードホルダーなど)を各ホームゲームでご案内しています。

### クラブや地域の活動後の変化

健康をキーワードに地域やスポンサー様と連携をとり、ヨガ体験や救急救命士による応急手当(心肺蘇生、AEDの使用法、止血法)セミナー、熱中症の原因・予防・対策のミニセミナー、熱中症対策の飴の配布など、多様な角度で「世界一安全なスタジアム計画」を拡大しています。



### 協働者の声

株式会社ナチュラルライフ(らいふ薬局) 大石さんの声: スポーツ観戦がスポーツという枠だけに収まらず、生活や人生(健康や生きがい)により密接に関わる存在になりつつあると感じます。その間口を作っていくこともクラブの大きな課題・使命となっていると思います。

### 参加者の声

スタジアムでの試合観戦が安全・安心にできることに喜びを感じています。また、「世界一安全なスタジアム計画」を通じて、健康への意識が今まで以上に高まったと感じています。(サポーターのご意見)

### 活動の「ここぞ!」というPRポイント

将来的にPHRを軸とした観戦方法(健康状態や嗜好品等から食事指導のアラート通知)の提案や、災害現場における初期現場活動での要救助者の情報活用の可能性があります。

### 補足

以前からサガン鳥栖は、安全・安心なスタジアム運営を心がけていました。その代表例として、スタジアムコンコースは一周できます。ホームゴール裏でもビジターグッズ、アウェイゴール裏でもホームグッズを身につけていても通行できる安全なスタジアムを運営しています。これはJリーグクラブでは非常に珍しい取り組みで、サポーター同士が試合前後に交流をする姿は鳥栖らしさの象徴とも言えます。